

第3回半田市市民チャレンジ協働プラン推進委員会

開催日時	令和4年11月17日(木) 10時～11時34分
開催場所	市民交流センター ホール
次 第	1. 議題 (1) 協働事業評価について (2) チャレンジ 2030 へのアプローチについて 2. その他 (1) 今後のスケジュールについて
出席者	千頭 聡 榊原 宏 伊藤 里香 曾根 香奈子 小野田 靖 藤牧 実
欠席者	戸田 愛 池田 美恵子
事務局	企画部長(山田宰) 市民協働課長(藤井寿芳)、市民協働課主幹(中村省吾)、市民協働課副主幹(鳥居ひとみ)、市民協働課(村瀬有佳子)
議事録	
1. 議題	(1) 協働事業評価について
事務局	【資料に基づき説明】
委員	前回の委員会の意見が網羅されていて素晴らしいと思います。他の自治体でもこのような事例があるのですか。
事務局	半田市のオリジナルです。
委員	この委員会の役割としては評価していくことになりましたが、164 事業のうち 5 事業の選定は事務局でされ、その選定されたものを評価するということですか。
事務局	第1回目の委員会の場で 164 の事業すべてをお見せします。選定する基準としては、担当課から希望があった事業や協働による効果・成果が高い事業など優先的に選んでいただく形としたいと考えています。
事務局	すべての事業を評価するというより、良い事業や協働の観点で助言することでより良い事業になるのではないかといった事業を評価していきたいです。別紙2の様式を主な資料として評価

	<p>することになるので、評価しやすいポイントが記載されているか等の観点でご議論いただけたらと思います。</p>
事務局	<p>追加説明です。資料3のスケジュールの説明として、第1回委員会にて5事業を選定し、第3回委員会では、具体的に5事業の評価をするため、担当課の職員にも出席してもらいます。1事業30分程度で2.5時間を目安と考えています。</p>
委員	<p>前回の意見が網羅されていて分かりやすくなったと思います。資料1の追加部分の「協働による効果・成果」の表記の仕方はどのようにする予定ですか。また、「事業の評価」ABCとはどのようなものでしたか。</p>
事務局	<p>「協働による効果・成果」の表記方法については、検討中ですが3、4段階にしようと考えています。「事業の評価」とは、庁内で毎年実施している「主要事業評価」というもので、事業自体の庁内評価のものです。混乱しかねないので、表から削除しても良いかなと考えています。事業のPDCAサイクルとしては重要な評価で、協働の評価と全く関わりがないわけではありませんが、協働事業の効果としてスポットを当てて評価する点を大事にしていきたいと思います。</p>
委員	<p>「協働による効果・成果」の表記方法については、検討中とのことですが、事務局に任せて来年度進めていくということですか。</p>
事務局	<p>今日の委員会の中で決めていただいても良いと思います。ただ、3、4段階など基準があった方が、委員会で皆さんや市民が分かりやすいのではとの考えです。</p>
委員	<p>別紙2「協働相手からの意見・評価」の中に項目があり、評価されていると分かりやすいと思いました。また、協働相手の内訳があるのも分かりやすいです。資料1のすべては、令和5年度が始まる前にいただけるのでしょうか。</p>
事務局	<p>資料3のスケジュールのとおり4月初旬を各課調査のメ切としますので、5月初旬には皆さんのもとにお届けできると思います。今日の協議結果により反映したものについては、年度内には委員へメールでご報告する予定です。</p>
委員	<p>我々委員が関わっている事業などで気づくことがあるかもしれないので、来年度に向けて確認できたらいいなと思いました。</p>
事務局	<p>調査後に事務局側で漏れがないかを確認のうえ、来年5月の会議前に委員の皆さんに情報の事前提供を行います。確認いただく中で漏れ等があれば会議前に連絡をいただき、会議資料には反映していけるようにしたいと思います。</p>
委員長	<p>本日の議論では個別の中身は話をしませんが、例示された内容を見るだけでも、協働相手を掲載するうえで相手を丁寧に精査しないと漏れが生じることがわかります。市側から見た表面的な協働相手だけを掲載すると実際と異なることがあり、多様な協働相手に関係していることが抜けてしまいますので注意が必要です。</p>

事務局	資料 1 の記載方法でいくと 1 対 1 での協働と捉えてしまう可能性が高いため、次回の事例取りまとめでは、より実態に近い回答が得られるよう、質問の仕方を工夫します。
委員	1 つのテーマを複数の事業で行い、協働する担当課がそれぞれメイン課となるような場合には、調整がされないと本来の趣旨とズレた把握となりかねないです。把握できる事業の中でも、より重点を置いた事業が整理され、検証できると良いと思います。
委員長	協働の相手をより丁寧に把握して、たくさんの主体が関わっていることがわかるように努めてください。 次に、評価の仕方についてですが、委員が述べられた定性評価が良いか、定性評価をしたうえで A～D 判定のように評価をイメージしやすくした方がよいか、他の委員はいかがでしょうか。
委員	協働事業に携わる立場として、よほどのことがなければ頑張る方々を A～D 評価の中で下位評価はつけられないです。
委員長	評価する対象の 5 事業のうち、誰が見てもダメだったというものがなければ、下位評価は出でこず、安定した評価が並ぶ可能性はあります。
委員	評価事業の精査の中で、委託・補助事業を外すという整理がされているが、補助事業でも頑張っている団体は存在する。委託・補助事業も市が協働事業と捉えて考えているということがわかるよう、1 事業でも評価対象の中に含めてもらえると良いと思います。 評価する事例が、市の協働に対する熱量が切り離されて考えられるようなものにはしてほしくないと思います。よいことばかりを取り上げず、芳しくないことも取り上げて発信していくべきではないでしょうか。
委員	委員がすべての事業を把握しているわけではないので、評価のポイントは受益者がどう感じているかがわかるものに絞る方がよいと思います。効果（目標）や受益者がぼやけているものは評価も曖昧なものになるでしょう。
委員長	評価シートに記載されたものだけで評価をするという側面はあるが、次の評価のために受益者の意見も把握した方がよいとの提案です。事業の評価が単に良い、悪いで終わるものではないということです。
委員	前回、何をもって協働とするかを議論したが、その目線を委員が改めて合わせないと評価が難しいです。今の議論や協議の半田市のゴールは何でしょうか。
事務局	評価の目的は、事業をグッドプラクティスとして認定することだけでなく、より協働の中身を発展させていくための意見、提言を受けるためのものでもあります。
委員	市民協働の究極は「半田市をよくする」ため。そのために行っている協働事業がどうなのかを評価するものではないのでしょうか。先ほどの発言で委託・補助事業を評価対象から外すべきでないといった理由は、市が施策展開するために委託・補助した事業がその目的に沿ったものに

	なっているかを評価せず、市民（団体）の側が主体で行っている事業だけを評価することは違うのではないかと思うからです。
委員	その意見に賛同で、市が必要な施策の委託先として協働している事業先（団体）が、委託だから協働事業として評価の対象から外されることは、事業者の側からすると頑張っていることが評価の対象外であるという事実にはがっかりします。
事務局	本日、委員に提示している資料は県のルールブックに基づき作成した基礎資料のうち、前回委員会で合意のあった評価しにくい委託、補助事業は除くとの判断に基づき、反映させたものを例示しておりますが、委員会が前回合意を破棄するのであれば資料はもとに戻します。
委員	前回委員会での判断のきっかけを作った発言は私がしましたが、委託の名のもとにどんな事業でも協働でくられるのは本意ではないため、他の委員の発言のとおり、目的をしっかり持って取り組まれている委託、補助であれば基礎資料に含み、評価対象事業とすることは問題ありません。
委員長	それでは、委託等事業も基礎資料に含む中で評価対象事業を選定することで、委員の皆さんよろしいですか。（一同、同意）
委員長	事務局に一つ確認です。資料の中で、前回会議にはなかった「グッドプラクティス」という言葉が出てきて、ここまでの委員会でも使われていますが、今回の評価事業の選定は「グッドプラクティス」事業を選定することとは異なるとの認識で良いですか。
事務局	好事例を5つ選定して評価していただくのではありません。また、欠点ばかりを見つけての評価でもありません。選定した事業に対し客観的な視点からより効果的に事業実施するための提言や協働の手法を用いたことで生じた良い効果に着目した評価をし、発展のヒントになる部分を導いてもらいたい。グッドプラクティスにつながるようにしていきたい点が目的になります。
委員長	評価対象事業は、事務局側からこの事業を評価して欲しいとの提案があっても良いし、委員提案であってもよいと思います。
委員	委員提案するためには、話が戻ってしまうが、評価をするうえで協働相手にどのような主体が関わっているかをより詳しく把握できるような資料提示が必要です。
委員長	過去の同様な委員会では、年度初回に対象事業を選定し評価していくという手法をとっていましたが、そのような形で進めていくことでよろしいですか。（一同、同意）
事務局	事業選定の基礎資料では、委託、補助事業もテーブルに載せたものを用意します。
委員長	今日の議論を踏まえると、資料2で提示いただいたタイトルにある「協働事業GP（グッドプラクティス）」の文言は削除していただく方が望ましいです。本委員会の評価や提言に基づき、グッドプラクティス事業が集まり、事例集の内容につながる流れの方がよろしいかと思えます。

(2) チャレンジ 2030 へのアプローチについて	
事務局	【資料に基づき説明】
委員	協働事業評価と同様に決められた事業から選定した事業を評価するという認識でよろしいですか。
事務局	決められた事業を評価するのではなく、事業計画が未定のものについて 2～3 事業を選定し、協働の手法による事業実施に向けて助言、提言を行い、現時点で事業実施に至っていない事業が企画立案・実施されることを目指すものです。
委員	スケジュールでは次年度第 1 回委員会で事業の決定となっていますが、計画が未定の事業一覧をいただいて、その中から協働の手法で事業実施できそうなものを選定して動き出すということよろしいですか。
事務局	その通りです。協働の手法で助言、提言し、事業実施につなげられそうな事業を選定していただきたいものです。
委員	職員との交流会とあるのは何ですか。
事務局	第 4 回委員会で予定しているもので、庁内の主事クラスの職員と市民活動団体と委員の皆さんでざくばらんに意見交換できる会としたいものです。
委員長	この仕組みは良いものだと思います。市の総合計画にある事業を提案した担当課だけの責任にするのではなく、しっかりと拾い上げて市民の力も借りて形にしていくという前向きな姿勢と捉えています。また、総合計画を形にするアイデアを当委員会のような別の場所で考え発信することは先進的取組とも言え良い事ではないでしょうか。 この中から、1 つでも、2 つでも形にすることができれば、とても素晴らしいことだと思います。
事務局	10 年前の 6 次総計では「協働」を知ってもらうのがメインであったが、現在の 7 次総計は協働の視点をもって事業化に取り組むということにしているので、形にする、発展させることができれば良いと思います。
委員長	これまで「協働」に親近感がなかった部局の事業が選定事業に含まれ、助言、提言により協働で事業化の可能性があれば面白いし、協働という視点で市民からアプローチできる機会になります。
委員	各種委員会等で話をした課長方と、「協働」という視点で、市民目線で助言、アイデア提供できる機会が設けられることは嬉しいことです。
委員長	この取組自体もチャレンジングな動きです。協働事業評価、チャレンジ 2030 への助言、提言から 1 つでも多くグッドプラクティスとなる協働事業が生まれると良いと思います。
2. その他 (1) 今後のスケジュールについて	
事務局	【資料に基づき説明】

委員長	第3回半田市市民チャレンジ協働プラン推進委員会を終了します。
-----	--------------------------------